



絵本太功記十段目尼ヶ崎の段



日高川安珍清姫道行の段

北原人形芝居

旧藏内邸十三夜観月会

きたばるにんぎょう

しばい

美しい月夜の城井谷。文化財庭園を背景に演じられる
巧みな人形遣い。三味線の音色と太夫の語り。

2026.10.23【金】

開演 18:30 入場開始 17:30

終演予定 19:45 ※途中休憩なし。 終演後は十三夜のお月見をお楽しみください。

出演：北原人形芝居保存会（大分県中津市）のみなさん

前売券：一般/高校生以下 1,000円

全席指定：先着80名 ※未就学児入場不可 前売券は9月1日（火）9時30分より旧藏内邸で販売開始

会場：旧藏内邸 大広間 福岡県築上郡築上町大字上深野396

（自家用車：東九州自動車道築城ICより約10分/駐車場あり）

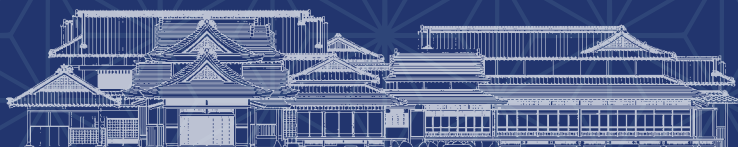
（JR利用：築城駅よりタクシーで約20分）

主催：築上町教育委員会

問い合わせ：旧藏内邸 ☎0930-52-2530

※水曜日休館

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。





1体の人形を1人で操る「はさみ遣い」

北原人形芝居（大分県指定無形民俗文化財）

鎌倉時代に北条時頼が諸国巡礼の途中、中津市大字湯屋で病に倒れた際、村人の献身的な看護により回復し、その全快祝いの席で、村人が手の甲に目鼻を書き、袖口からそれをのぞかせて余興としたのが、北原人形芝居の始まりといわれています。文書等が残されておらず詳細は不明ですが、長い間に歌舞伎と人形浄瑠璃に発展したようです。明暦2年(1656)には小倉小笠原藩初代藩主の弟、長俊の御前で公演し、元禄7年(1694)には浄安寺(大分市)で府内藩主の招きで上覧興行しました。

18世紀末に大坂道頓堀に「文楽座」が設置され、現在見られる人形浄瑠璃の形態が確立すると、その技術は淡路島を經由して北原に伝えられ、江戸時代末から明治時代初期には北原の人形座巡業により、北部九州各地に広まりました。福岡県指定無形民俗文化財「伊加利人形芝居」(田川市)や、かつて豊前市にあった「玉川座」は北原人形芝居の流れを汲みます。なお廃絶した「玉川座」は築上町椎田でも人形芝居を上演していました。

北原人形芝居は毎年旧正月(新暦2月4日/現在は2月第1日曜日)に原田神社(中津市北原)のお伊勢堂の万年願で上演されます。

主な演目

① 三番叟採みの段

さんばそうも だん

五穀豊穡や天下泰平を祈る能の祝祭劇を起源とする、大変おめでたい舞踊です。力強くリズムカルな足拍子や空を飛ぶような躍動感あふれる動きが最大の見どころで、人形芝居では一日の公演の無事を祈る幕開きとして上演されます。北原人形芝居独自の1体の人形を1人で操る「はさみ遣い」で演じられます。

② 艶容姿女舞衣 酒屋の段

はすがたおんなまいぎぬ さかや だん

遊女三勝と恋に落ちた半七は、誤って人を殺めてしまい、追われる身となります。半七を心から愛する妻のお園は離縁されて実家の酒屋に戻されていますが、夫の身を案じ続けています。そこへ半七がボロボロの姿で現れ、父親は激怒して追い返そうとしますが、お園は必死に半七をかばい、二人の深い愛が描かれます。三味線と太夫の哀切な語りに合わせ、人形遣いが遣うお園の繊細で美しい仕草が人間の生身の感情以上の悲しみを観客に伝えます。かしらと右手を操る「主遣い(心遣い)」と左手を操る「左遣い」、足を操る「足遣い」から成る「三人遣い」で演じられます。

③ 日高川安珍清姫道行の段 (ダイジェスト)

ひ だかがわあんちんきよひめみちゆき だん

皇位継承をめぐる争いから命を狙われる身となった桜木親王は、山伏安珍となり、紀州真那古の庄司の家にかくまわれていましたが、恋人の姫君と再会し、二人で庄司の家を出て、道成寺に向かいます。実は親王の身分であるとは知らずに安珍を慕っていた庄司の娘、清姫は、そのあとを追いかけて、日高川のほとりに辿りつきました。清姫は船頭に川を渡してくるよう頼みますが、渡さないよう安珍に頼まれていた船頭は冷たく断ります。どうしても諦めきれない清姫は嫉妬に狂い、ついに大蛇に姿を変えて川を渡ってゆくのでした。北原人形芝居独自の1体の人形を1人で操る「はさみ遣い」で演じられます。

④ 絵本太功記 (一部を上演)

えほんたいこうき

武智光秀(史実の明智光秀)が主君・尾田春長(史実の織田信長)を本能寺で討ち、真柴久吉(史実の羽柴秀吉)に討伐されるまでの13日間を1日1段に分けて上演します。

*人形の遣い方の説明や人形を遣う体験もあります。



田園に囲まれた旧蔵内邸



夜の旧蔵内邸



大玄関 (大正9年/1920建築)



庭園と十三夜の月 (令和6年10月15日撮影)

蔵内家と城井谷800年の歴史

旧蔵内邸は通称「城井谷」にあります。城井谷は切り立った山々に囲まれた全長約18kmに及ぶ天然の要害で、中世には豊前宇都宮氏が拠点としました。蔵内氏もその家臣として名を連ね、豊臣政権下で主家滅亡後、江戸時代には帰農し庄屋を務めました。明治以降は田川郡にて炭坑業で財を成し、旧制築上中学校や田川中学校(現田川高校)建設資金を寄附するなど多くの社会貢献を行っています。